

# 経営比較分析表（令和3年度決算）

茨城県 小美玉市

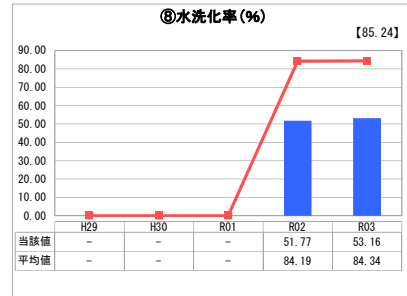
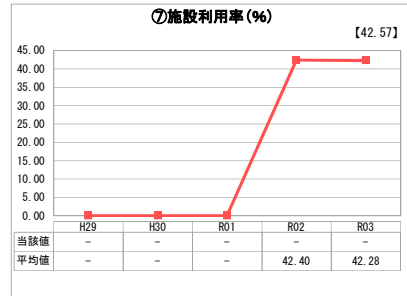
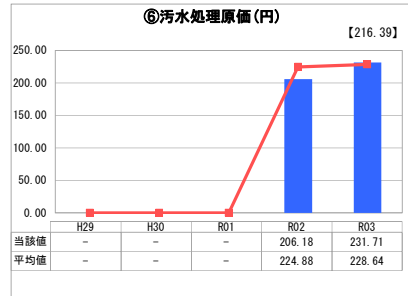
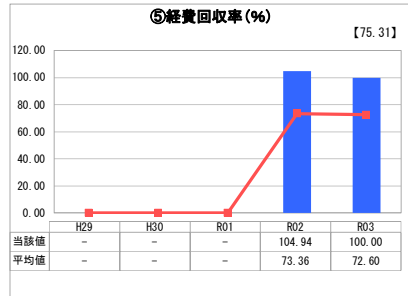
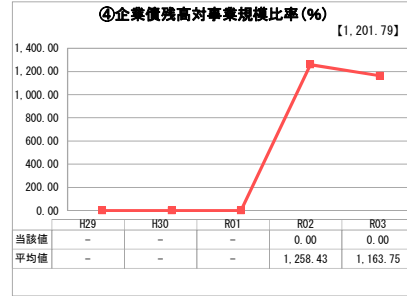
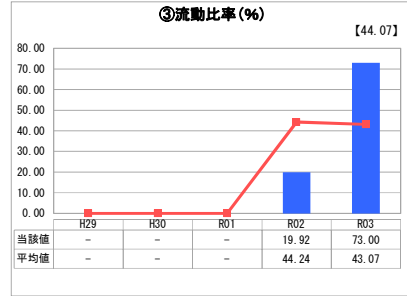
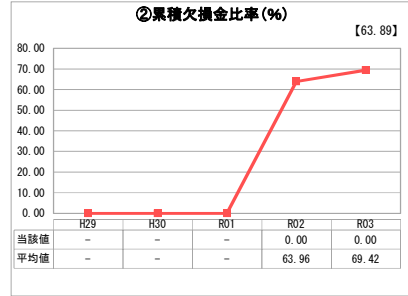
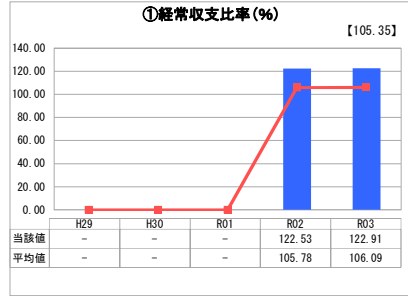
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	特定環境保全公共下水道	D2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)
-	50.88	11.16	100.00	3,080

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
49,445	144.74	341.61
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km <sup>2</sup> )	処理区域内人口密度(人/km <sup>2</sup> )
5,487	2.51	2,186.06

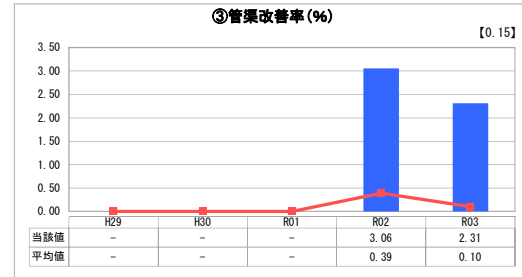
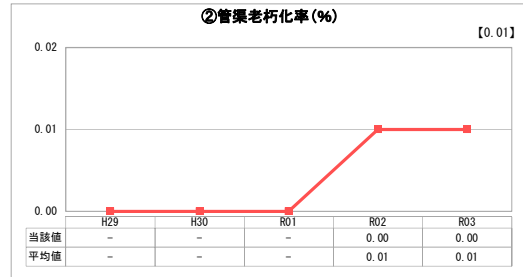
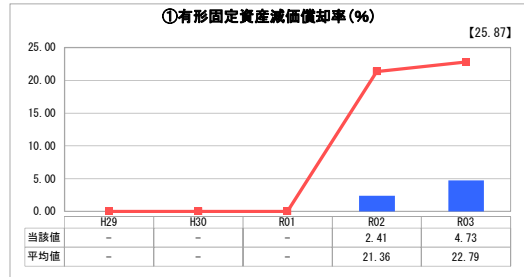
**グラフ凡例**

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 令和3年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率が100%を上回っているが、経常収益について一般会計からの繰入金が大きな割合を占めている。毎年供用開始区域が拡大しており、引き続き普及率の向上を図り、使用料収入の収益を増加する必要がある。

② 流動比率が昨年度より増加している要因として、一括して公共下水道事業で計上していた流動資産を特定環境保全公共下水道事業の資産に計上したことによるものである。

③ 企業債の償還については、一般会計からの繰入金に依存していることから、使用料収入の更なる収益増を図る必要があるため、コスト削減や接続促進に取り組む必要がある。

④ 経費回収率は類似団体平均値を上回っている。今後も引き続き積極的な接続促進を図ることで、さらなる使用料収入の確保、さらに汚水処理費のコスト削減に努める必要がある。

⑤ 汚水処理原価は類似団体平均値を上回っている要因として、国補正分で実施した流域下水道事業に対する負担金の増加が挙げられる。今後も引き続き積極的な接続促進を図るとともに、さらに汚水処理費のコスト削減に努める必要がある。

⑥ 水洗化率は類似団体平均値を下回っている。今後も引き続き、早期における積極的な接続促進を図る必要がある。

### 2. 老朽化の状況について

① 有形固定資産減価償却率は継続して新設管渠工事を実施しているため類似団体平均値より下回っているが、今後は将来的な管渠や中継ポンプ場等の老朽化を見据え、長寿命化計画、さらに現在策定中であるストックマネジメント計画等に基づき、計画的かつ効率的な維持管理に取り組む必要がある。

② 管渠の改善は、修繕計画に基づき、計画的かつ効率的に取り組む必要がある。

### 全体総括

今後は、新設工事と併せて老朽化に伴う管渠や中継ポンプ場等の改修等の維持管理費の増加が見込まれるため、適切な財源確保が重要になってくる。そのためには、維持管理等におけるコスト削減や流域下水道事業との広域化・共同化、使用料収入の収益増に向けた積極的な接続促進を図るなどの取組が必要である。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。